

とっておきのハッピーモーニング あふれでる



特集「童謡が聞こえる」

広報

Houjyou 笑顔が、緑が、自然がキラキラ  方城町

9 2005
SEPTEMBER
第242号

ほろしよら



メンバーが演奏もこなしちゃいます。(写真左から、コカリナ、フルート、ギターを演奏)
男性陣も裏方を頑張って支える。グループ全員が一つの家族みたい。



おじいちゃん、おばあちゃん、とっても喜んでたよ。慰問も大切な活動の一部です。



佐藤 直子さん(香春町在住)
伴奏、歌のアレンジなど、音楽担当をしています。
コカリナ演奏に歌と大忙し。



平緒 喜代子さん(秋ヶ原)
コンサート企画や司会、プログラムの構成など、
活動を支えています。もちろん、歌も歌います。



お母さんと息を合わせて読み聞かせをしたよ。

そーっと耳を 澄ませてごらん。

童謡グループ「ヤンチャリカ」



マイクスタンドより低いんだ。でもね。
歌う声は大きいんだよ。

ふけ 童謡の風

ヤンチャリカ(深見陽子代表)は、昭和62年、第2回全国童謡歌唱コンクール全国大会に、福岡県立社会保育短期大学(現福岡県立大学)付属幼稚園の年長児4人が出場。それをきっかけに、大庭音楽事務所の大庭照子さんやスタッフと出会い誕生しました。

それから今日まで、音楽事務所の人たちや幼稚園の先生たちの全面的バックア

ップと友人、知人からのあたたかい協力に支えられ活動を続けてきました。

童謡は、日本が世界に誇れる文化的な財産です。その童謡を大人と子どもがいつしよに歌い続け、子どもの心を、子どもの文化を育てて約20年。現在の構成メンバーは2歳から成人までと幅広く、親子三代で参加している家族もあります。

ヤンチャリカは福岡県内に限らず、県外での大きなコンサートにも出演したり、老人・障害者施設や保育園、子ども病院などにも慰問しています。「これからは、さらに地域に根づいたグループとしてネットワークを築き、みなさんと共に手を取り合いながら教育、文化の向上を目指していきます。」とメンバーのみなさんは話してくれました。

核家族が増える社会にあつて、親子の絆、年齢を超えた人と人との交流を続けている注目すべきグループです。



親子三代が勢ぞろい。双葉ちゃん(写真下左)と春ちゃん(写真下中)のバッグとチェックの七分丈パンツは房子さん(写真上左)の手作り。もちろん房子さんもおそろいです。



コンクールに向けて、練習にも熱が入ってます。



「この方がいいね。」親子で歌と踊りをチェック中。



「おてもや〜ん」と思わず手拍子したくなる。(房子さんです。)

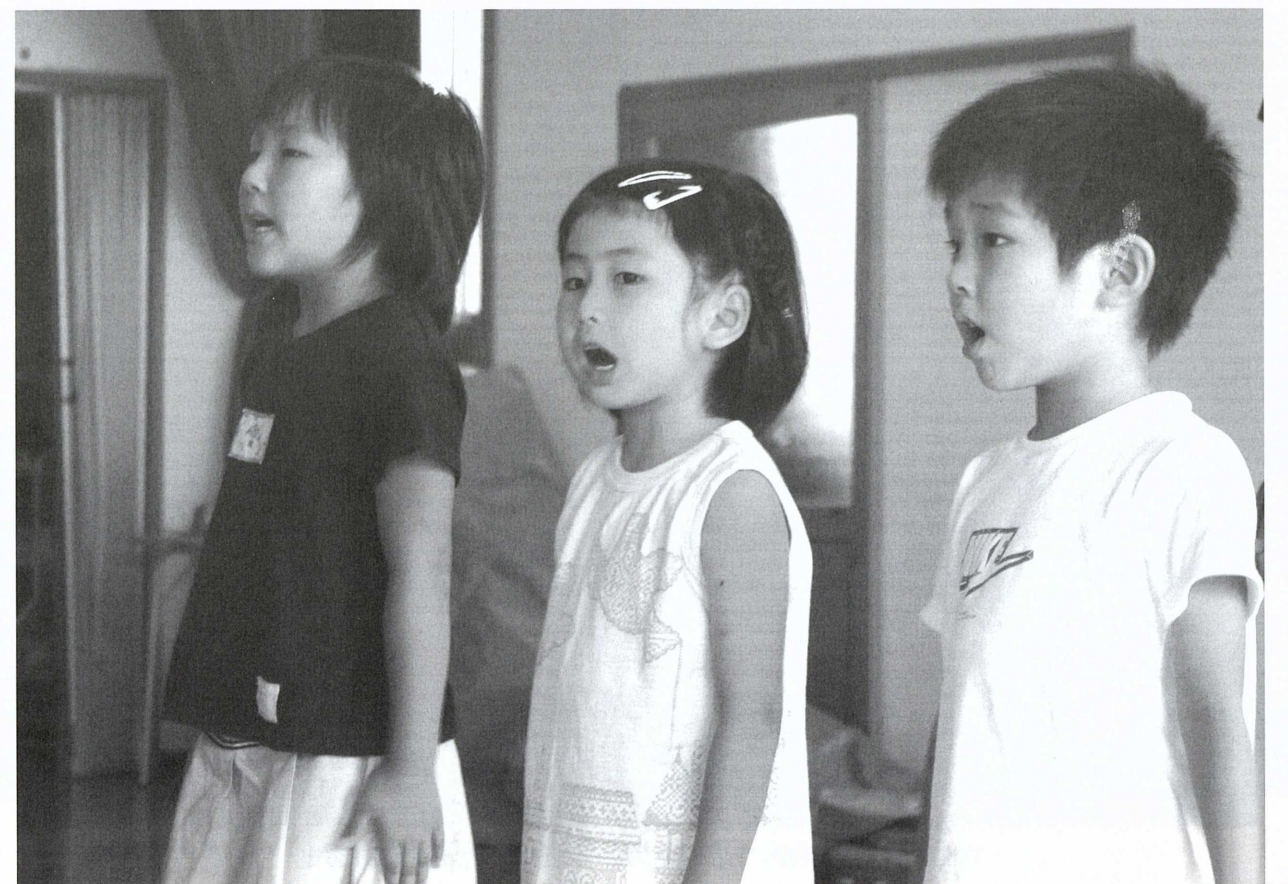
今年も一次審査を通過して、9月3日、福岡市博多区のパピヨン24ガスホールで開催される九州大会に出場します。

童謡の魅力に惹かれ、親子三代で童謡を歌っている家族がいます。弁城迫に住んでいる香月房子さん。

きっかけは、房子さんが童謡好きだったこと。今のよう

に孫の双葉ちゃん、娘婿の香川二郎さんと春ちゃん、音くん親子三代で歌うようになった、いきさつを房子さんが話してくれました。

「私は、ずっと童謡が好きで歌ってきました。まだ、孫の春が幼かった頃、童謡を歌って聞かせると、ぐずらずに眠ってしまうんですよ。『あーこの子は童謡が好きなんだって思いましたね。』それとね、ヤンチャリカの中で歌う親子の姿を見て私と春、双葉で思い切って入ったんです。次に音、それから春と音の



表情豊かに大きな声で、おおらかに童謡を歌う(写真左から)香川春ちゃん、香月双葉ちゃん、香川音くん

そーつと耳を澄ませてごらん。

ヤンチャリカの中で頑張っている三世代親子



香月 房子さん(迫)
「童謡は心のふるさと」孫たちには、これからきれいな歌に出会わせたいし、伝えていきたい。

♪三世代で
♪歌っちゃお
♪踊っちゃお

時代が変化していく中で消えていった、ふる里の風景、なつかしい人々の姿、「幼い頃、子守歌で聞いた」「曲名は分からないけど、この歌は知っている」と、年齢や性別を問わず幅広い人たちの記憶に残る童謡の歌詞とメロディ。

「私は、ずっと童謡が好きで歌ってきました。まだ、孫の春が幼かった頃、童謡を歌って聞かせると、ぐずらずに眠ってしまうんですよ。『あーこの子は童謡が好きなんだって思いましたね。』それとね、ヤンチャリカの中で歌う親子の姿を見て私と春、双葉で思い切って入ったんです。次に音、それから春と音の